講義名	研究演習Ⅱ				
講義コード	15405	授業形態		開講期・曜日・時限	通年 月曜日 ５時限
担当教員	栗田　真樹			ナンバリング・コード	SEM340

学部・学科	演習分野
人間社会学部　心理社会学科　観光学科	栗田真樹ゼミナール（マーケティングの社会学）

概要説明

テーマ：「マーケティングの社会学」・・・現代社会における人々の意識とマーケティング

この演習は社会学・社会心理学を基礎としますが、さらに次の三つの特徴があると考えます。

①「現代社会」を取り扱う
　現代社会は、産業社会、消費社会、情報社会、福祉社会、少子高齢社会、余暇社会など、さまざまに表現されます。これらの「○○社会」の「○○」の部分は、現代の特徴をあらわしています。本演習では、これらの社会の特徴である言葉をキーワードとして、「現代社会」の特徴を明らかにしていきます。社会全体の特徴を捉えようとする姿勢・視点が必要になるでしょう。
　うえの「○○社会」の「○○」の部分、産業、消費、情報、福祉、少子高齢、余暇など（その他も含めて）が研究テーマとなります。このテーマは各自の興味関心で決めてもらって構いません。なお、担当者は産業社会、消費社会、地域社会、情報社会、サービス社会などに興味関心があります。

②マーケティングに焦点をあわせる
　流通科学大学は英語名UMDS（University of Marketing and Distribution Sciences）にもあるようにマーケティングを専門的に教育研究する大学です。その中で、この演習では(1)社会とのかかわりでマーケティングを考える(2)社会学からマーケティングを考える(3)社会学のマーケティングを考える
　我々人間は何かを考えて「行動」をすると考えられます。結果としての「行動」、さらにはそれが集まってできる「社会」を説明する、あるいは将来を予測するためには、まず人が何を考えているかという「意識」から捉えていこうと考えるわけです。「意識」が変われば「行動」も変わり、ひいては「社会」全体が変わるかもしれません。
　ただし、個人の心理だけではなくて、「人と人とのつながり」、「社会とのつながり」といった「社会意識」を取り扱うので、心理学とは少し異なります。しいて言うなら「社会心理学」の領域に近いでしょう。
　具体的な領域として、受講者自身の興味関心がある領域を対象とします。

③「実証的」な研究(社会調査)、の方法をとり、実践的な活動を行う
　内容分析、フィールドワーク、質問紙調査法など、実際に本当かどうか確かめるという「実証的」な研究(社会調査)の方法をとります。自分自身でデータを集め、それを分析することによって、卒業研究を行なってもらいます。既存の文献の単なる切り貼りでは卒業研究とは認めません。
また、実践的な活動（社会連携、社会共創、産学連携）に参加することで、研究能力を育成するtことを目指します。

その他、注意しておいて欲しいこと
・正規の授業時間外にコンピュータ実習、調査実習、フィールドワーク、演習合宿にあてる場合があります。これらの活動については、授業の一環なので参加してもらいます（もちろん日程は調整します）。
・できる限り社会連携プログラムに参加したいと考えていますので、正規の時間外の活動にも積極的に参加するようにしてください。
・実証的な研究で必要となるコンピュータの技法は演習内で指導しますので選考時には必要はありません。また、自分でパソコンを所有している必要もありません。しかし、将来のことも考えれば、スマートフォンだけでなくパソコン（ワープロ、表計算、電子メール、ウェブ閲覧・作成）の操作能力があり、パソコンを所有していることが望ましいと考えます。

主な卒業論文のタイトル

○「人気カフェの構造について　～スターバックスとドトールの比較～」
○「ファストファッションの現状と課題」
○「これからのコンテンツ・ツーリズムのあり方に関する研究　～涼宮ハルヒシリーズの舞台を題材として～」
○「ジーンズで考える理想のスタイル」
○「バス業界の現状と今後の展望について～遠足は帰るときまで遠足～」
○「大人のテーマパーク新提案」
○「ＦＵＪＩ　ＲＯＣＫ　ＦＥＳＴＩＶＡＬ～日本最大級のロックフェスが伝える環境問題」
○「『産業廃棄物とわたし』～資源循環型社会に向けて～」
○「現代社会における児童虐待の現状とその対策」
○「個人のプライバシーと人権に関する研究　～winny問題を中心として～」
○「在宅生活における困難緩和」
○「福祉イベントで地域福祉を考える」
○「祭りが社会に与える影響について」
○「住みよい街をつくるには　～ユニバーサルデザインの街づくり～」

教員よりの要望

　よく学びよく遊ぶ、面白い考え方、何か一つのものに打ち込んでいる、世の中の役に立ちたいと考えている、2年半で何かをやり遂げたい、などの希望を持った人の所属を希望します。授業の単なる一科目ではなくて、演習所属の皆さんと担当者の私が一緒になって、何かおもしろい成果を出せればと考えます。
　自らすすんで勉強しようとしない受け身の人は、どうかご遠慮ください。

　その他、今回演習を選択する皆さん、全員に言いたい事は、「自分に合った演習を見つけてください」ということです。そのためには、数多くの演習説明会、ガイダンスに参加することが必要でしょう。
　現在まで、勉強してきた人もそうでない人も、研究演習での勉強で「少しでも自分を変えよう・変わろう」と思わないのであれば、大学に来た意味はないかもしれません。

　「大学で学んだことは、何の役にもたたない」と言う人がいます。そういう人は「大学での学修を役に立てられなかった人」です。受動的ではなくて能動的・積極的に「大学で学んだことを、何に役立てらるか、どう役立てられるか」が、これからの人生においては重要です。それを考える契機としてください。

選考方法

　提出された書類と面接で選考します。面接は個別ガイダンス時のことではなく、申し込み書類提出後にもう一度確認のためにお会いしたいと考えています。必ず連絡先（メールアドレス、携帯電話番号等）を記入しておいてください。単位修得状況も参考資料にします（成績の良し悪しだけでは決めません）。面接では研究したいテーマ、将来の進路希望について詳しく聞きたいと考えています。
　なお、志望者が定員をオーバーした場合、勉強する意欲のある人、積極的に就職活動をする気のある人、卒業研究まで履修する気のある人、「社会調査士」資格取得を目指している人、を優先的に受け入れます。また、志望者が定員を下回っても、研究したいテーマが演習のテーマと外れていたり、勉強に関する意欲がみられなかったり、書類をきちんと書いていなかったり、面接を受けなかったりしたような場合には、演習の所属をお断りすることがあります。

　なお、2年から3年への進級の際に、演習所属者全員に今後の所属について再考してもらいます。その際、「研究演習II」所属のための課題を提出してもらいます。他演習からの所属変更希望者がいた場合には、その人にも提出してもらいます。つまり、「研究演習I」は「研究演習II」の準備段階で、「研究演習II」の開始が次のステップのスタートと考えています。もちろん、「研究演習I」から累積的に学習してもらうことが望ましいことに変わりはありません。

　演習を履修するために、あらかじめ受講する必要がある科目はありませんが、社会学、社会心理学を基礎としますので、人間社会学部生は「社会学基礎」や「社会心理学」を履修・復習しておいてください。また商学部・経済学部の学生は研究演習Iで社会学・社会心理学の基礎を学んでもらいます。

評価方法

　演習は累積的に行うので毎回出席を前提とします。クラブ活動や就職活動を理由とした欠席は必ず連絡してください。病気等での欠席も無断欠席は禁止です。後になっても良いので、必ず連絡してもらいます。学生は社会人になるための準備期間です。また学生である以上、授業とその他の活動は「両立させること」が基本と考えます。もちろん「両立できる」ようにできる限り支援します。要は、自覚と責任をもって行動できるようになってほしいと言うことです。
　成績は、出席状況、課題提出、演習での活動（プレゼン、討論、フィールドワークへの参加等）を総合して、評価します。

教員英字氏名	研究室
Kurita Maki	研究棟Ⅴ 5428研究室

最終学歴

関西学院大学大学院社会学研究科博士課程後期課程単位取得退学

学位

修士（社会学）

主な研究活動・社会活動・研究業績

▼「商店街研究の社会学的意義」田中道雄・ 濱田恵三・佐々木保幸・稲田賢次編 『日本社会の活力再構築』2018年10月.
▼『大学生のための社会学入門―日本学術会議参照基準対応―』 篠原清夫・栗田真樹編著、晃洋書房、2016年7月.
▼「新しい文化サービス産業の『聖地』としての地域ブランド」（田中道雄・白石善章・濱田恵三編『地域ブランド論』同文館、2012年6月．）
▼「フランスの生活文化サービス産業　－マンガ文化産業の流通を中心として－」（田中道雄・白石善章・相原修・河野三郎編著　佐々木保幸・三浦敏・小林正美・大木賀恵・山下香・瀬藤澄彦・李為・栗田真樹著　『フランスの流通・都市・文化　グローバル化する流通事情』　中央経済社　2010年7月．）
▼　『現代中国の流通と社会』（田中道雄・鄧杭生・栗田真樹・李強編著、ミネルヴァ書房、2005年11月．）
▼　『現代フランスの流通と社会』（白石善章・田中道雄・栗田真樹編著、ミネルヴァ書房、2003年6月．）
▼　「消費の社会的価値」（白石善章、田中道雄編『現代日本の流通と社会』pp.253-263、ミネルヴァ書房、2004年1月．）
▼　「ものの見方の多様性」（岡本栄一、澤田清方編著『社会福祉への招待』pp.192-206、ミネルヴァ書房、2003年6月．）

▼　専門社会調査士（登録番号:490）
▼　兵庫県少子化検討委員(1993)など。

趣味・特技

　趣味は、スポーツ、散歩、音楽、映画、読書、マンガ・アニメ、写真、ビデオ、パソコン、旅行、ドライブ、お笑い、古着・帽子収集、ファッション誌の購読（かつ講読）など、たくさんあります。なかでも、スポーツは「見る」のも「する」のも好きです。また、コンピュータで音楽や映像を処理したりして遊ぶのも好きです。
かつては3ケタの体重があったのですが、「レコーディングダイエット」でダイエットに成功。スイーツは食べ過ぎないように注意しています。
　また、最近は"Pokémon GO"にも「はまって」いて、研究対象にもしています。

所属

人間社会学部心理社会学科

所属学会

日本社会学会　関西社会学会　日本社会心理学会　日本応用心理学会　情報通信学会　日本広告学会　日本世論調査協会　日仏経営学会　日本行動計量学会　実践経営学会

専門分野

社会学、社会調査法、産業社会学、消費社会論、消費者行動論、社会心理学

担当科目

社会調査の基礎　社会調査演習Ⅰ　産業社会学、社会統計学Ⅰ、専門基礎演習、地域ブランド論

備考

先輩ゼミ生からの声（一部コメントを再構成しています）：
「‘自分の不向きな仕事’なんかない。努力をするか、しないか。心の底から笑って、どんな時でも笑顔で俳優になりましょう。」
「鍛えられました。」
「私は全然『こわくない』」
「自分のやりたいことはちょっと変わっているので、他のゼミではやらせてもらえそうにない。それが出来そうだったのでこのゼミを選んだ。」
「一つの領域だけでなくて、いろんなことが出来そうだからこのゼミを選びました。」
その他：
　本演習は2005年度から開講していますが、これまで学園祭にゼミ単位で出店したことは２回だけです（2009年、2011年）。演習担当者としては参加が好ましいと考えていますが、ゼミ生の意向を尊重します。これまでは、出店の意向があまりなかった、あるいは参加できる条件が整わなかったということです。

実務経験の有無及び活用